



## 特集「城絵図の世界」 — 収蔵資料からみる —

大日方家文書と興津家文書



松本城絵図（部分） 興津家文書

長野市立博物館が保管している大日方家文書・興津家文書の中から、興味深い城絵図をここで取り上げて紹介します。城絵図は、その用途によって描かれる精密度は異なりますが、城の構造を知るうえでとても参考になります。信濃の城、武田の城、そして真田の城である沼田城を取り上げます。あわせて、合戦絵図（陣取り図）も紹介します。

城絵図は様々な用途でつくられましたが、大日方家は「国絵図」の作成に際してその任にあたっていることから、城絵図の制作と何らかの関係があったと考えられます。国絵図作成の補助資料としたのかもしれませんが。

興津家は松代藩士の家でした。興津家には松本城関連の史料が多く残されています。おそらくは、享保10年（1725）に松代藩が松本城受け取りの任にあたっており、この時に作成されたもので、何らかの理由により興津家に残されたものと思われる。

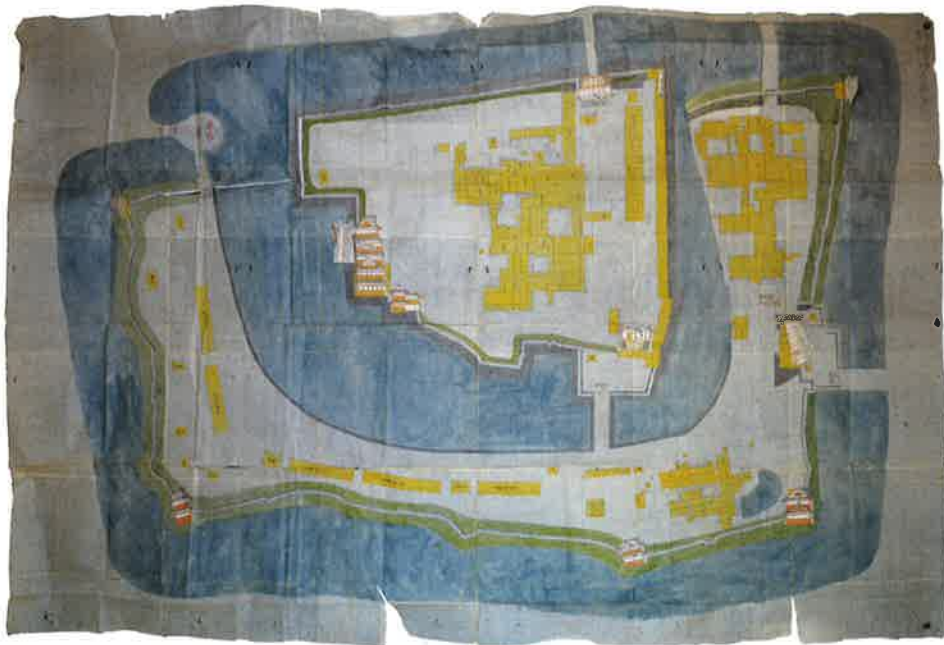
## 松本城の絵図

松本城の前身は、中世に築造された深志城にはじまります。天文19年(1550)に武田信玄が松本の地に入ると、北信濃攻略の拠点としたのが深志城です。

天正10年(1582)に武田家が滅亡すると、木曾義昌、小笠原洞雪、そして小笠原貞慶へと城が引き継がれます。貞慶の時に深志の地名を松本と改めたといわれます。

天正18年(1590)に豊臣秀吉が小田原の北条氏を攻める際、松本城に石川数正を入れました。また、文禄2年(1593)～文禄3年(1594)頃に関東の家康を監視するために松本城天守を築いたといえます。

石川氏の後には、小笠原氏、戸田氏、松平氏、堀田氏、水野氏、そして戸田氏と、城主が入れ替わりました。



松本城絵図 (興津家文書)



松本城下絵図 (興津家文書)

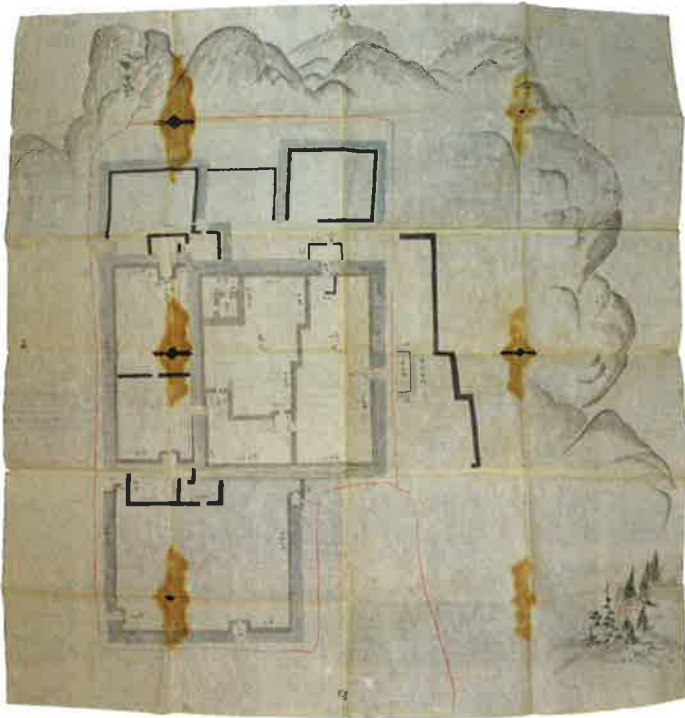


## 躑躅ヶ崎館

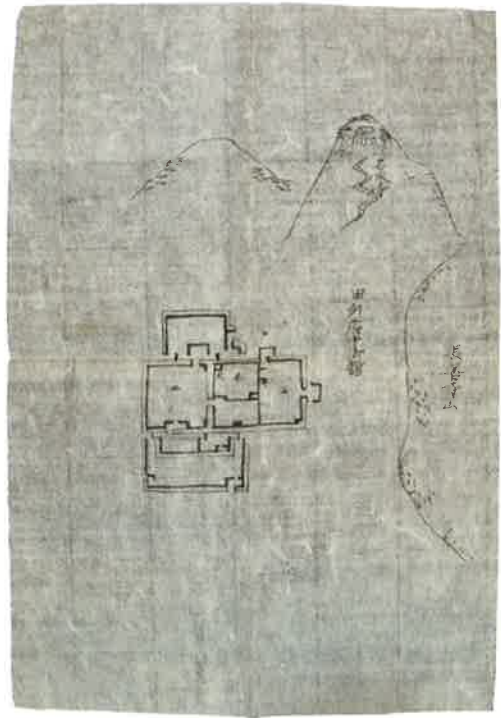
永正 16 年 (1519) に武田信虎が甲府盆地を一望する地に館を築きました。信虎の時は堀一重の主郭部分でしたが、信玄の代になると施設も増え、館の規模も大きくなりました。

りました。

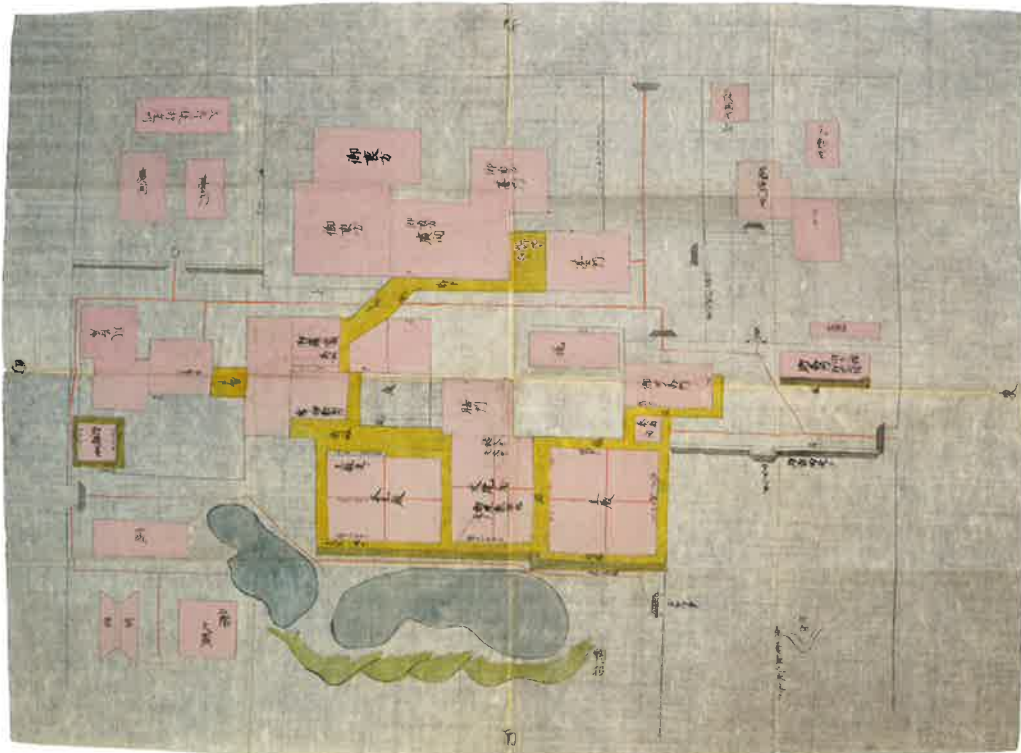
武田家が滅亡した後も利用され、天守閣が造られたり石垣が整備されるなど、大きな改修が行われました。



甲州古府中絵図 (大日方家文書)



信玄公御屋形図 (興津家文書)

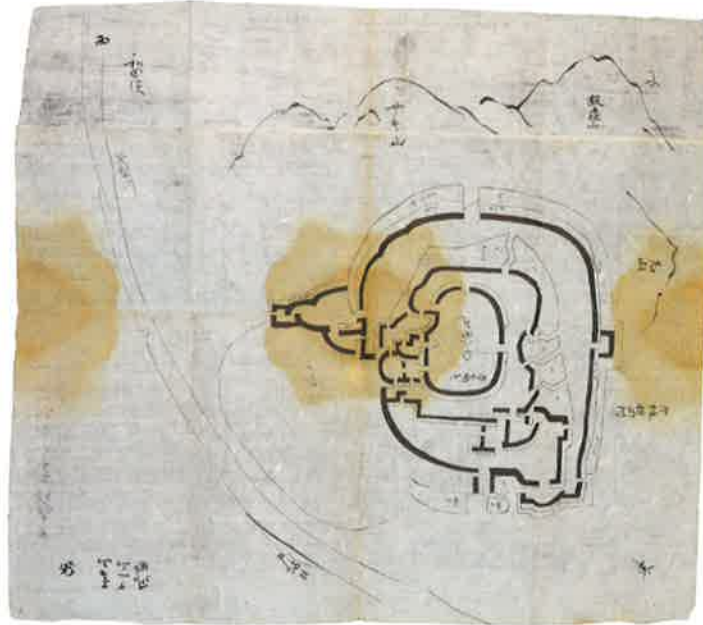


信玄館絵図 (興津家文書)

## 新府城

武田勝頼が躑躅ヶ崎館から移した拠点が新府城です。武田氏の支配が広範になったため、拠点を西の韮崎市に移したのです。

規模の大きな城ですが、天正10年(1582)に織田信長に攻められ、武田家の滅亡とともに落城しました。

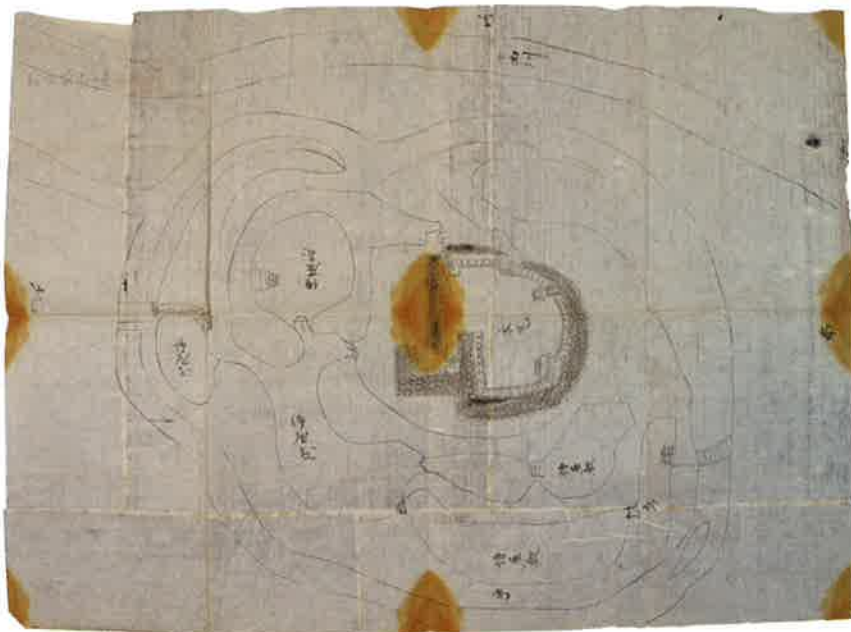


甲州新府中絵図 (大日方家文書)

## 飯山城

上杉謙信が永禄7年(1564)に信濃計略の前線基地として築城したといわれます。上杉景勝の支配する時代になると、城代となった岩井信能が城普請と共に城下町づくりを行いました。江戸幕府が成立する

と、堀氏、佐久間氏、松平氏、永井氏、青山氏と城主は交替します。享保2年(1717)に本多氏が入城すると、明治維新まで9代にわたって飯山城を拠点に統治します。

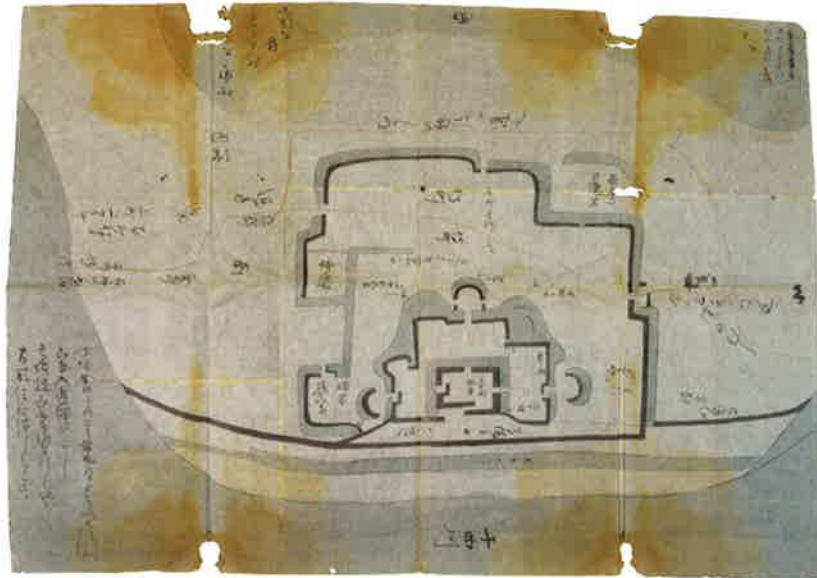


飯山城絵図 (大日方家文書)

## 長沼城

弘治3年(1557)に武田信玄によって築城されたといわれます。永禄11年(1568)に飯山城の上杉謙信と対峙した時には、その拠点となりました。江戸時代になると、

元和2年(1616)に佐久間勝之が初代藩主となり長沼藩ができます。しかし元禄元年(1688)に佐久間氏は改易となり廃城となります。



長沼城絵図 (大日方家文書)

## 上田城

天正11年(1583)に真田昌幸が築城を開始しました。この城で真田昌幸は2度、徳川家康軍と戦うこととなります。2度目の戦いは関ヶ原の戦いの時のことですが(右下の絵図がこれにあたる)、これにより上田城は取り上げられ、かわりに長子の真

田信之が入城しました。

元和8年(1622)に信之が松代に移封されると、仙石忠政が上田城に入ります。仙石氏は上田城の再建を行いました。その後、仙石氏にかわって松平氏が入り、明治維新を迎えるのです。



上田城絵図 (大日方家文書)



上田古戦場絵図 (大日方家文書)



## 沼田城

戦国時代にこの地を治めていた沼田氏が築城したことが始まりとされます。その後、真田昌幸が入り、これにかわって天正18年（1590）に真田信之が城主となります。

その後は真田家が城主として5代続きますが、天和元年（1681）に真田家が改易されるとともに廃城となります。



沼田城絵図（大日方家文書）

## 高遠城

武田信玄が上伊那の拠点としてこの城を整備し、城主には信玄の近親者が就いています。山本勘助が築城に関わったとされ、その名残として曲輪に「勘助曲輪」の名が

あるといわれます。江戸時代になると、保科氏、鳥居氏、内藤氏が入り替わりで城主となっています。現在、城は桜の名所として広く知られています。



高遠城絵図（大日方家文書）

## 合戦図（陣取り図）

戦いの様子についてその陣形を示す絵図があります。戦いの様子を説明したり、あるいは、軍学などの学問で用いられたりし

たのでしょう。写真は島原の乱の合戦図（陣取り図）と、川中島合戦陣取図です。



島原合戦の図（大日方家文書）



川中島合戦陣取り図（大日方家文書）



## 牧之島城

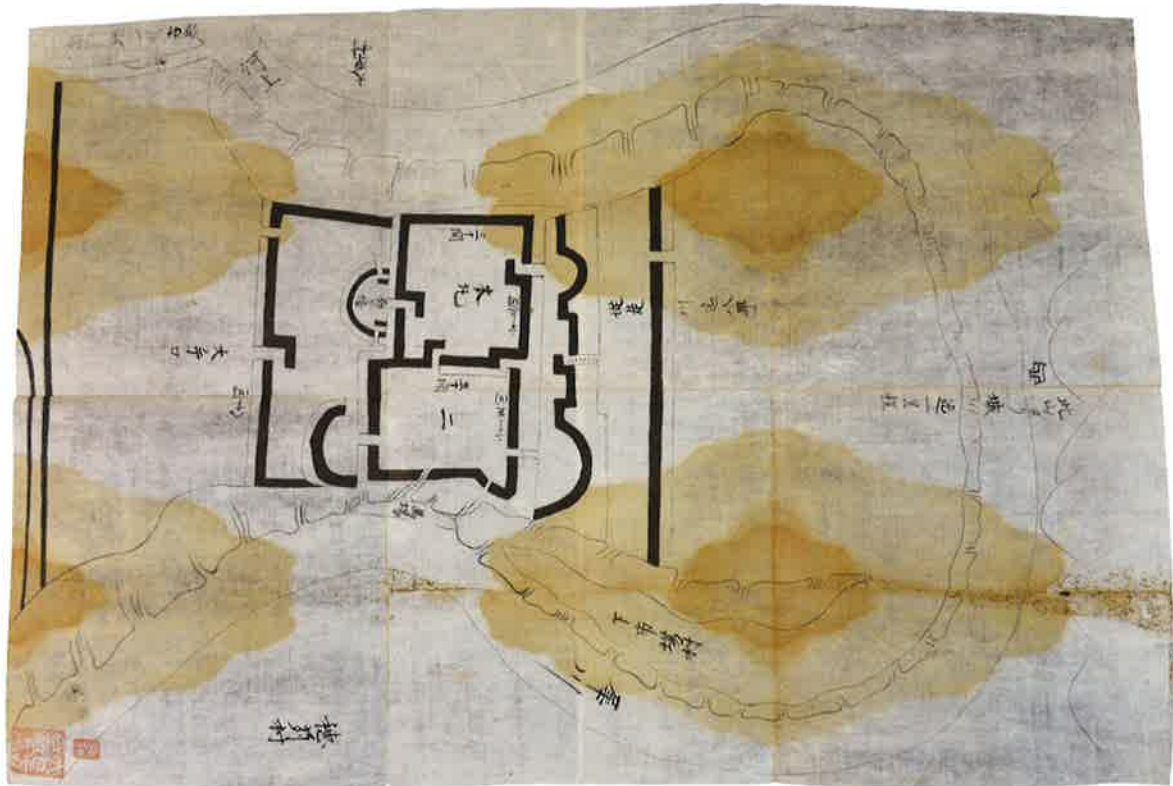
永禄9年(1566)に武田信玄が馬場信房に築かせた城と言います。元香坂氏の居館の一部で、丸馬出しなどの特徴が典型的な武田の城の系統といえます。城の南、西、北を犀川がめぐり、自然の要害となっています。武田氏が越後や更級郡、水内郡の鎮撫にあてた城です。

天正10年(1582)に武田家が滅亡すると、上杉景勝の属城となりました。その

後、海津城(松代城)主の属城となりましたが、慶長8年(1603)に松平忠輝が海津城主となった時も城としての機能をもたせ、松平信直を在城させています。しかし元和2年(1616)に松平忠輝が改易されると城は破城となりました。

江戸時代になると、松代藩主が野懸けなどで度々訪れることとなり、城は往時の姿を維持してきました。

(原田和彦)



牧之島城図 (大日方家文書)

### 参考文献

・長野県立歴史館『信濃国の城と城下町—発掘が謎を解く—』2016年

## 博物館だより 第124号 発行日2022年12月31日

### 長野市立博物館

〒381-2212 長野市小島田町1414  
TEL:026(284)9011  
<http://www.city.nagano.nagano.jp/museum>

### 戸隠地質化石博物館

〒381-4104 長野市戸隠栃原3400  
TEL:026(252)2228

### 鬼無里ふるさと資料館

〒381-4301 長野市鬼無里1659  
TEL:026(256)3270

### 信州新町美術館・有島生馬記念館・信州新町化石博物館

〒381-2404 長野市信州新町上条88-3  
TEL:026(262)3500